

# 林業者と連携し、地域の中で生きていく

松原産業株式会社 松原 由典



## 1 はじめにー当社の概要

当社の歴史は、1900年代の初頭の坑木造材事業から始まります。当時は石炭採掘業の隆盛期で、北海道炭坑汽船株式会社様を通して坑木を納入しました。次いで、私の叔父にあたる松原武吉が1931年に松原組として木材の営業を始めました。その後、製材、グライダー製作と事業の範囲を広げ、1946年、栗山町に製材工場、フローリング工場、経木（折り箱用単板）工場を新築しました。当時の製材工場では、高品質・大径のナラ材をイギリス向けのコフィン（棺桶）用材として加工・出荷し、残った材をフローリング原材料として利用しました。これが、フローリング事業の始まりになります。

1948年には東京都中央区京橋に本社を置く松原産業株式会社（以下、松原産業）を設立し、その後、本社を工場が集積する夕張郡栗山町に移しました。栗山町には元日本ハムファイターズ監督の栗山英樹氏が私費を投じて造った少年野球場「栗の樹ファーム」があり、当社は環境貢献事業の一環として「栗の樹ファーム」でのアオダモ植樹に協力しています。

## 2 めざしている方向

当社では、経営理念として「自然を愛し、安全・安心を求め、正直な経営を心掛けよう」を掲げています。また、企業としてめざしている方向は次のとおりです。

- ・全社員が幸せで充実感のある生活を送れること
- ・お客様にとって価値のある会社になること

このような経営理念・方向に基づいて表1に示す事業を営み、2023年度にはおおよそ63億円を売上げました。その内訳は、しな合板68%、無垢床材5%、建材販売10%、建設・土木7%、その他（造林・造材、グラフィックスプリントなど）10%となります。

表1に示されるように、当社では川上から川下に至る多種の事業を進めています。それらの中で、早い時期から事業を開始し、現在も道産材を使用して全国に販売している無垢床材（フローリング）、および先人達が積み重ねてきた社有林での造林・造材業を紹介します。

表1 松原産業の事業概要

事業	内容	
造林・造材業	社有林及び入札物件の施業	
木製品製造	製造製品	製造工場
	しな合板	継立合板工場
	無垢床材	栗山床板工場
建材販売	集成材や構造用合板や什器等	
建設・土木	主に公共物件の施業	
グラフィックス プリント	屋内外サイン、店舗サイン、車両広告、ポスター、印刷物など	

## 3 フローリングについて

フローリングの売上げは2023年度で3億円、全体の5%でした。1992年度頃の12億円をピークとして、複合フローリングとの競合、体育館を含む公共施設の統合による減少が売上げ高に影響しています。

フローリング原板は、当初は原木を集荷し、自社製材工場で製造していましたが、2001年に製材工場を閉鎖してからは他社から調達しています。

道産材を用いて単層フローリングを製造していることが当社の特徴で、2023年度の道産材の割合は95.6%でした。フローリングの主要な使用樹種と生産量を示します（表2）。近年のナラ材の高騰に対しては、工場のコスト削減では吸収できず、お客様にご理解を頂き製品価格を上げさせていただいています。

フローリングを手がけるようになった当初、体育館用としてナラ、カバ等の北海道産広葉樹種が特記仕様として指定されていました。ナラ、カバ等の、堅牢で、摩耗が少なく、弾性が適度にあるという特徴がバスケットボールなどの球技競技場として最適だったからだと思えます。また、スリップが少ない、ストップ時の脚にかかる負荷が少ない、ボールの反発が適度である等の特徴も体育館に向いている点です。

単層フローリングでは、湿気による木材の膨張収縮の発生抑制が課題となります。当社では乾燥技術の改善を積み重ね、木材含水率を8~10%に制御していま

す。これにより、目地部の盛り上がり、隙間の発生を使用限度内に抑制しており、現場で評価されてきました。このような体育館需要は今後も継続するに違いありません。他方、床構造の根太工法から鋼製床工法への変化、運動靴の飛躍的な進化、合成樹脂素材の台頭など、時代は進化し続けています。このような流れに対応しながら、形状や性能に特徴のあるフローリング（表3、写真1～2）を開発するなど、単層フローリングの新規ニーズを開拓しているところです。

フローリングの代表的な使用事例を表4、写真1～4に示します。

表2 フローリングの主要な使用樹種と生産量

用途・仕様	使用樹種 <sup>4)</sup>	生産量 (m <sup>2</sup> )
体育館専用フローリング <sup>1)</sup>	ナラ	5,000
	カバ	9,000
	イタヤ	1,000
	アサダ	200
店舗・住宅用フローリング <sup>2)</sup>	ナラ	8,000
	カバ	2,000
	タモ	1,000
	イタヤ	500
公共施設・店舗用パーケット <sup>3)</sup>	ナラ	5,000
	カバ	2,000
	ビーチ	1,500
	イタヤ	50

- 1)：長方形；巾78mm，長さ400mm以上  
 2)：長方形；巾75mm～150mm，長さ400mm以上  
 3)：正方形；300mm角  
 4)：下記以外にシラカバ，カラマツの床材を需要に応じて製造・販売

表3 特徴的なフローリング

特徴	製品名
形状の変化	デザインフローリング
	スネークフロア (曲線) (写真1)
	ヘキサゴン (六角形)
	ボックス (ひし形)，等
尖っている	フレンチヘリンボーン (写真2)
表面粗仕上	ラフグレイ
節入り	エムエスフローリング 節あり
表面硬化	トドマツ圧縮フローリング



写真1 スネークフロア



写真2 フレンチヘリンボーン

表4 使用事例

施工年	物件
1964	国立代々木競技場第二体育館 新築工事
1995	同上 改修工事
2020	同上 改修工事 (写真3)
2008	湿原の風アリーナ釧路 新築工事
2020	北海きたえーる 改修工事 (写真4)
2022	ジブリパーク大倉庫 新築工事
2024	北海道庁赤レンガ庁舎 改修工事

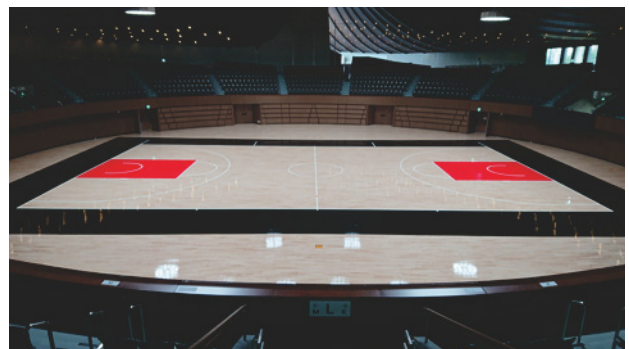


写真3 国立代々木競技場第二体育館



写真4 北海きたえーる

#### 4 社有林の活用

当社は全道19か所に合わせて4,400haの社有林を有しています。現在の私たちが社有林を伐採して素材生産し、用途別に製材工場や合板工場等に販売し、伐採跡地に苗木を植え（写真5）、下刈りをはじめとする育林を行う、という持続的な林業を行えているのは先人の先見性の賜物と考えています。社有林の伐採はその地区の森林組合と打合せ、協力を得ながら進めています。これからも近隣地区の山林の取得を進め、持続可能な林業経営を拡大することを通じてSDGsの達成に貢献していきたいと考えています。さらに、今後は不足している苗木の生産にも取り組んでいくことを計画しています。



写真5 厚真町にある社有林  
(北海道胆振東部地震後の2022年植栽)

#### 5 100年に向けて

1993年、父・二代目社長松原東一郎は、会社創立45周年記念誌“歩み”を発行しました。その中に、次のような一文が残されています。

日本で、世界で、地球全体で心の豊かさとは何かを考える時代になろうとしています。当社の使命はその心の豊かさを古くから親しまれてきた「木」を通して5,000ha（当時）の社有林の1本1本に愛情を注ぎ、自然環境の保全に努力をしながら「人と山を育てる」をモットーに人に地球に優しい社会づくりを目指します。

それから30年経過した今も当時の信念は脈々と受け継がれています。温暖化現象による自然災害の発生が世界的に問題となり、また、大きな二つの戦争が齎（もたら）す社会そして環境への影響は脅威であります。しかし、そのような中でも当社は「人と山」を育てながら、業界そして取り巻く社会と手を携えながら、社員が、その家族が、そして社会全体が明るい毎日を暮らせるよう励んでまいりたいと思います。

来年は昭和で言えば昭和100年、そして7年後には松原組の創業から100年を迎えます。その節目の年に少しでも社会に、そして自然環境に貢献できる会社を目指してまいりたいと思います。